

第12回白山火山防災協議会（議事要旨）

1 日 時

令和5年2月16日（木）14時00分～15時00分

2 場 所

松任文化会館ピーノ 401研修室 ※web 併用

3 報告事項

- (1) 令和4年度白山火山防災協議会活動報告について
- (2) 白山火山噴火緊急減災対策砂防計画の見直しについて

4 協議事項

- (1) 白山火山防災協議会規約の改正について
- (2) 令和5年度白山火山防災協議会事業計画（案）について

5 その他

- (1) 白山の火山活動の状況について

6 議事要旨

(1) 議事概要

会長（山田白山市長）の挨拶に続き、会長の議事進行で議事に入った。

報告事項(1)を事務局より、報告事項(2)を北陸地方整備局金沢河川国道事務所より説明。

その後、協議事項(1)(2)を事務局からそれぞれ説明し、質疑応答の後、すべて承認された。

続いて、「白山の火山活動の状況について」を金沢地方気象台から説明を行い、最後に、副会長（成原白川村長）の挨拶で閉会となった。

(2) 質疑応答の要旨

①質疑（白峰区長）

白峰小学校は避難促進施設に指定されているので、3月13日の住民避難訓練では小学校児童は避難する必要がないのではないかと。また、訓練自体は良い取り組みだと思うが、小学校の周辺には建設事業者や一般住宅もあり、当日こうした方々が混乱しないよう、訓練の実施についてしっかりと周知していただきたい。

①回答（事務局）

資料1-2にある避難促進施設は、市が指定する避難所とは異なる。白峰地区の住民の方が、どのように移動されるのか。それに対して関係機関がどのように連携していくかを検証するために住民避難訓練を行うもので、当日は、白峰小学校の児童、教職員の皆さんには移動をお願いしたいと考えている。また、訓練の周知にもしっかりと取り組みたい。

②質疑（白山観光協会専務理事）

昨年のような豪雨等により県道国道など通行止めとなるような時に噴火した場合、通行止めと噴火時の避難どちらを優先させるのか。例えば、国交省の資材運搬道路の使用や見張りを付けた通行規制の緩和など、今後のために整理いただきたい。

② 回答（事務局）

関係機関と協議を図りながら、お知らせしていきたい。

③ 質疑（信州大学平松教授）

登山者の安全を確保するための施設については、その機能だけではなく、他のことにも活用出来るような整備を検討頂きたい。例えば、シェルターを作るのであれば、登山者の休憩場所という平時の機能に加え、万が一の噴火時に登山者がとるべき行動などに関する学習資料も配備するなど、多目的な利用を検討して頂きたい。

③ 回答（事務局）

先進地視察も含め、いただいたご意見についても検討していきたい。

④ 質疑（白山観光協会専務理事）

白山室堂は噴火口に近く、実は室堂直下では地震の回数も多い。既存施設の大規模改修は費用の面から難しいかも知れないが、可能であれば、登山客からも要望が多いように、宿泊棟と室堂センターをシェルター機能でつないで、その中に噴火時の避難行動に関するPR機能も盛り込むようなものを、県になるのか国になるのかわかりませんが、要望させていただきたい。

④ 回答（北陸地方整備局金沢河川国道事務所）

国交省では、様々なシミュレーションを行っておりますので、先ほど、資材運搬道路を使ったらどうかというご意見もありましたので、シミュレーションを積み重ねながら課題を抽出し、解決して次の計画に反映させるということで、想定外を無くすという取り組みが大切だと感じた。

⑤ 質疑（室堂所長）

昨年、民放のテレビ局が室堂センターに白山奥宮祈禱殿などを映すライブカメラを設置し、YouTubeで配信していた。現在白峰に火山監視カメラは設置されているが、より山頂に近い室堂にも監視カメラを設置した方が天候の影響にも左右されにくく良いのではないか。

⑤ 回答（気象庁火山監視・警報センター所長）

気象庁としても、火山における観測機器の充実に関して毎年国要望はしているが、予算がかかるために実現していない。引き続き、前向きに取り組んでいきたい。